

# 令和3年度 学校自己評価書

小美玉市立竹原小学校 校長 谷萩 成利

## 1 今年度の取り組みの概要

学校経営の基本方針を「楽しく元気な学校づくり」とし、キーワードとして「対話力向上」を掲げた。基本方針を実現させるため、①「児童が主体的・対話的に学び、分かる喜びを楽しむ学校」②「あいさつや対話力の向上による温かい人間関係の楽しい雰囲気の学校」③「豊かな人間性と明るく前向きな姿勢をもった、児童と共に学ぶ教師」④「保護者や地域と連携・協力できる学校」⑤「環境の整った美しい学校」の各項目について具現化に努めた。そして特に「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」について、達成目標を設け具体的な方策の実践に取り組んだ。

<達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る>

### ◎ 組織目標についての具体的な取り組み

組織目標	児童の対話力を向上させよう		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
<b>確かな学力の育成</b> ○対話的学びを通して、自ら考えを深める学習指導の充実により、確かな学力を育成する。	○対話的学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業展開及び形態等の工夫</li> <li>・ICTを活用した指導の工夫</li> </ul> ○特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の工夫</li> </ul> ○読み取る力の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題の補充</li> <li>・読書活動の充実</li> </ul> ○家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話合い活動を授業に積極的に取り入れた結果、91%の児童がその有効性を認めている。</li> <li>・ミライシードのドリルパークを活用することで、オンライン授業に対応することができた。</li> <li>・タブレット端末を活用することで、学習が分かりやすくなったりした児童が85%になっている。</li> </ul>	A
<b>豊かな心の育成</b> ○相手を思いやる対話、相手に嫌な思いをさせない対話の指導を通して、自他共に認め合える豊かな心を育成する。	○対話力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く姿勢の育成</li> <li>・きちんとした受答の指導の充実</li> <li>・相手を気遣った対話力の育成</li> </ul> ○元気なあいさつの実践 ○道徳教育・人権教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科授業の充実</li> <li>・人権感覚、人権意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業改善を進め、考え、議論する授業が展開できた。</li> <li>・人権に係わる道徳学習や人権集会を通して、他者を思う気持ちの醸成が図れた。</li> <li>・生活アンケートによりいじめの早期解決が図られている。</li> <li>・あいさつ運動への自主的参加児童が増え、あいさつの定着が進んだ。</li> </ul>	A
<b>健やかな体の育成</b> ○対話的な学びを活動に取り入れながら、運動に親しみ、健やかな体を育成する。	○体力増進、投力アップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びの励行</li> <li>・体育的行事・活動の工夫</li> </ul> ○学校健康教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育の充実</li> <li>・感染症予防に関する教育の充実</li> <li>・栄養教諭と連携した食育指導</li> </ul> ○基本的生活習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝、早起き、朝ご飯の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったが、体育の授業での運動の工夫に努め、基礎的な運動量の確保を図った。</li> <li>・外遊びの励行により、多くの児童が屋外で遊ぶことができた。</li> <li>・登下校時に巡回指導を行うなど、安全確保への配慮を行った。</li> <li>・避難訓練を工夫し、避難に関する学習機会の充実が図れた。</li> <li>・栄養教諭を招いての食育指導を全学年で実施することができた。</li> </ul>	A

## 2 今年度の成果と次年度に向けた課題

### ○学力向上について

確かな学力の育成として、「対話的学びの充実」「特別支援教育の充実」「読み取る力の育成」「家庭学習の充実」を柱として取り組んできた。授業においては、タブレット端末の活用を中心にICT機器の効果的活用について校内研修を重ねてきた。対話的な学びについては、オクリンクやジャムボードを使用して、タブレット端末を通しての対話的な学びも研修してきた。また、昨年度まで取り組んできた朝の会や帰りの会などにおいて、スピーチ活動を日常的に取り入れ、基礎学力としての発表力の定着を図る取り組みも継続している。家庭学習や自主的な学習活動の充実については、臨時休業中のタブレット端末を活用した取組をしている。本校の県学力診断のためのテストの結果では、正答率の年ごとの変動が大きい。国語においては、相手や目的を意識して、文章を考え、伝えること、聞く力に課題がある。算数においては、グラフや資料から読み取って自分の考えを表現すること、問題の意味が理解できないことに課題がある。そのため、次年度に向けて補充学習を実施し学力の定着を図る。特に、ICT活用を一層工夫して課題改善に努める。また、教科横断的に自分の考えを説明するような課題を授業の中で取り入れる。さらに、朝のモジュールを活用し、漢字の読み書き、ドリル的に短い文を書く学習指導をする。算数では基礎・基本の定着を図るとともに、グラフや表から必要事項を読み取る内容を授業に取り入れる。今後とも誤答傾向の分析などをさらに進め、指導の方法の改善を進めていく。

### ○豊かな心の育成について

今年度の組織目標の「対話力を向上させよう」に基づき、挨拶については、教師が範を示し、声に出して挨拶を交わすことを習慣付けてきた。また、相手の話をしっかりと聞く児童を育成するために、話が聞ける姿勢になるまで待ったり、人の話を相手の目を見て聞いたりする学級・授業づくりを目指して全職員で共通理解・共通実践に努めてきた。「よりよい人間関係づくり」を図るために、次年度は学級活動での構成的エンカウンターの実施や、道徳の時間での考え方、議論することを多く取り入れていきたい。また、人権を意識した学校生活について職員間で確認した。特に呼名の仕方や何気ない言葉でも人権を侵害する言葉があることを再確認した。道徳の時間の対話場面については、タブレット端末を活用することも意識しながら授業を進めた。ICT機器の効果的活用を取り入れながら指導法の向上が図られるとともに、授業後学んだことを日常生活の中で実践する機会を設けている。今年度からよつば幼稚園が開園し、幼小交流の機会ができるだけ多く取り入れるようにした。次年度も必要なウイルス感染対策の中で、幼稚園児とのふれあい活動など道徳の授業と結びついた行事等を意図的に設定し、豊かな心の育成につなげていきたい。

### ○健やかな体の育成について

体力テストの結果から、投力や握力の向上のために体育の授業でタオルを使った筋肉トレーニングを昨年度に引き続き継続して実施してきた。新型コロナウイルス対策については、日常生活との両立を図ることが大切だと考え、朝の登校では一人一人の健康チェック表を確認し、手指の消毒をしてから校舎に入るようにしてきた。給食では担任が配膳し、すべて分けきるようにしている。遠足等のバスでは1台増便し2座席に一人座るような対応をした。新型コロナウイルス感染症の拡大防止と体育館長寿命化改修工事のため、体育的な活動への制限が多くなった。運動会については規模を縮小して分散型で実施することになったが、児童の活躍の場の確保に努めた。持久走大会については、実施することができなかったが、業間マラソンなど、大会までに体力向上の機会を多くもてたことは成果だったと考える。また、適正な感染防止を図った上で、休み時間には多くの児童が運動場に出て活発に運動に取り組む姿が継続できていることも次年度につなげていきたい。

## 3 保護者や地域への皆様へ

- 学校経営の基本方針を「楽しく元気な学校づくり」とし、キーワードとして『対話力向上』を掲げました。実現を目指し、学校全体として「児童の対話力を向上させよう」を組織目標とし取り組んできました。学習場面では、タブレット端末の活用を中心にICT機器の効果的活用について校内研修を重ねてきました。対話的な学びについては、オクリンクやジャムボードを使用して、タブレット端末を通しての対話的な学びについて研修してきました。また、新型コロナウイルス感染防止のための様々な制限がある中、よつば幼稚園開園に伴う幼小交流を学年ごとに工夫しながら実施しました。朝のあいさつ運動や昼の清掃、運動会や遠足などの行事の実施にも継続して

取り組みました。その結果、児童が日常の自分を改めて見つめ直し、成長することにつながっています。今後もコロナ禍の厳しい状況が継続すると考えられますが、保護者や地域の協力を得ながら、学校の教育活動を充実させ、児童一人一人の成長を促す活動に積極的に取り組んでいきます。

- 児童の学校生活アンケートでは、「学校に来ることが楽しい」と答える児童が約90%と昨年度より上がっています。また、「相手に聞こえるようなあいさつ」「早寝・早起き・朝ごはん」「給食は好き嫌いなく食べている」については、できていると回答した児童が80%台と他の項目に比べて低い傾向が見られました。これらについては、コロナウイルス感染予防のための臨時休業や制限の多い学校生活の影響も考えられますが、個別対応が必要な場面もあり、児童一人一人に目を配り、ご家庭の協力も得ながら細かな対応をしていきます。